

受領No.1455

## 治療抵抗性うつ病に対する新規治療薬創出

代表研究者 近藤 誠 大阪大学大学院 医学系研究科 准教授  
共同研究者 島田 昌一 大阪大学大学院 医学系研究科 教授

### Creation of novel therapeutic drug for treatment-resistant depression

Representative Makoto Kondo, Graduate School of Medicine, Osaka University,  
Associate Professor

Collaborator Shoichi Shimada, Graduate School of Medicine, Osaka University,  
Professor



### 研究概要

うつ病は我々にとって大変身近な精神疾患の1つであり、世界で3億人以上が罹患していると推計されている。現在、うつ病治療には抗うつ薬が用いられているが、既存の抗うつ薬が奏効しない治療抵抗性うつ病患者は多く存在しており、大きな社会問題となっている。したがって、うつ病に対する新規治療薬の開発は急務の課題である。我々は、これまでも、うつ病の病態メカニズムや抗うつ薬の作用メカニズムに関する研究において、重要な研究成果を発表してきた。本研究では、麻酔薬であるケタミンには即効性の抗うつ作用があること、しかし、依存性や副作用などの問題があることを踏まえ、ケタミンによる抗うつ作用メカニズムに着目し、新たな病態モデルマウスを用いた研究により、治療抵抗性うつ病に対する新規治療薬の開発を目指す。本研究は、現代医学の重要な課題に取り組むものであり、多くのうつ病患者の治療や、人々のこころの健康に貢献できると期待される。